

幽霊・化けもの、大歓迎！！

前号の「ジョリーの選択」については、もうすこし反響を待って、いつか続きを書くつもりです。

今月号は、久しぶりに本来の連載「ときどきの老い」に戻って、年を重ねるに随って、好ましく、また身近に思えるようになってきた、“幽霊・化け物”大集合！！について、お話ししましょう。

一口に「オカルトブーム」といいますが、超常現象とか、超自然現象とか、20世紀の初頭、第一次世界大戦でヨーロッパ全体が廃墟となったとき、これがブームとなりました。科学の発達結局、大量殺戮兵器にしか結びつかなかったことへの嫌気・反動でしょうか、反科学的な超常現象などが流行したのです。でもすぐあとの第二次世界大戦に続くわけですが、何の役にも、戦争抑止力にもならなかった、屁のツッパリにもならなかった、ことはよく判ります。

日本の現代の“化け物”といえば、水木しげるの漫画ですが、戦争で片腕を失っている水木ですが、登場する妖怪に“恨”はあまり感じないな。

欧米の吸血鬼やフランケンシュタインなど、姿がいかにも人間に近い、いわば“怪人”は、オペラ座の怪人にしても、あんまり愉しくない。“恨”がありありだからかな？

日本の化け物というか、物の怪＝モノノケで、いちばん“恨”の深いのは、お馴染み菅原道真公の雷神だな。中央で失脚した貴人は、地方で伝説になり神様、天神さんになったりする。もっとも天神さんともなれば、いつまでも恨んでないで優しいむしろ縁起のよい、受験の神様なんかに変身する。

「源氏物語」の“六条御息所”は、光源氏の正妻“葵の上”を生霊＝イキリョウとなってとり殺す。没後は死霊＝シリョウとなって紫の上、女三の宮を襲う。「平家物語」の“平の知盛”は、壇ノ浦で瀬戸内海に沈んだ一年後「我こそは知盛幽霊なり」と名乗って、海上に浮かび上がり、義経・弁慶一行の西国落ち（＝九州行き）を遮る。

近代型の幽霊は、ずっと後の明治初頭に、三遊亭円朝がつくった「お岩さん」や番町皿屋敷の「お菊さん」。執念深く、恨みを晴らす、祟る（＝たたる）、さらには悪事を許さない、仏教的な因果応報色の濃い幽霊になったのだな。

オカルトっていうと、ハリウッド製の「ホラー映画」。私はあんまり見ないが、日本製のホラー映画では「リング」を観たな。もう10年以上前になるかな、よくできた作品で、じゅうぶん恐かった。松島奈々子が初々しくて可愛かったのも思い出す。そこにチラッと登場するお化けは、わたしたちが普通にもつ「幽霊」のイメージに近いものでしたね。うすくなった長髪を乱し、痩せた無表情の青白い顔、白い薄衣をしどけなくまとった女、でした。

これは近代型の幽霊で「円山応挙」の幽霊絵から流行したものと云われます。先きに書いた円朝作品に登場する、四谷のお岩さんも番町のお菊さんも、みなこの型で現れます。柳の枝が垂れ下がっている水辺や井戸にフーッと現れ「恨めしやー」と、両手を力なく胸の前で垂らす、脚は見え、どうやら腰以下は消えているようだという、あれです。幽霊の「幽」の字解は、「糸」の下方が消えているモノが二つ「山」間に浮遊している、ということらしいですが、幽霊には「お足がない」が定着しました。

幽霊が出現する「化けて出る」場所は水辺、長屋だったら井戸や台所などの水場。時間は、深夜“丑三つ時”、だいたい夜中の1～3時頃。お寺の鐘が「陰に籠もってもの凄くボ～ン」と鳴るとお出ましです。細かいことですが、さきほど触れたように、お寺＝仏教と結びついています。

これに対して“化けもの”はどうでしょうか。場所は「学校のトイレ」だったりします。時間帯も、昼間と夜間の境目、すき間なら、たいていOKです。

水木しげる的な、妖怪、化け物たち、姿はよくみれば怖い、けど愉しい、笑っちゃう。どうしてこんな妖怪たちに、年齢が増すにしたがって、惹かれるようになったのでしょうか。

——以下次号——

「推手～二人で行う太極拳」・・・3

これまで套路と推手は太極拳上達の為の両輪であるとお話しして来ました。この推手を練習する上でとても重要なことがあります。それは「感覚」で動くということです。これが推手の目的であり套路練習との違いです。套路が身体動作の練習とすれば、推手は身体感覚の練習なのです。

前回、推手の練習は「相手が推さば引き、引かば推す」と説明しましたが、これは目で見て反応し、タイミングを合わせて動くものではありません。相手が推して来るのは触れている手から感じ取り、その感覚に合わせて身体を動かすのです。ですから推手は手を通して相手の動きや力を感じ取る練習、そしてその感覚に合わせて身体を動かす練習なのです。

目で見て動くときは頭で判断し、身体は頭からの命令に合わせて動かす事になってしまいます。一人で行う套路練習もやはり頭で考えて、頭で身体に命令して動かす。套路はすべて自分の意思で動く「自律動作」ですが、推手は相手に合わせて動く「他律動作」なのです。推手はいつ動くか、どの様に動くかは自分の意思で決めるのではなく、相手に従うのです。

つまり套路と推手は性質の全く異なる練習なのです。太極拳の「両輪」と称するのは、単に重要な二つの練習、もしくは、独りから二人へと進む段階的な意味ではなく、互いに助け合いながらも相反する陰陽の練習、故に左右の両輪なのです。

套路はまず自分で意識してから動作します。自分の感覚で動いてはいけません。それに対して推手は自分の意識で動いてはいけません。考えずに感覚に従って動きます。どちらか一方の練習だけでは他方を補う事は出来ません。しかし両方練習すれば互いに補う事が出来るのです。推手で得た感覚を套路に、套路で身に付けた動きを推手にといった具合にです。

陰と陽どちらかだけでは存在できないが陰陽になると矛盾しながら互いに補う。そして陽が生まれる事で陰陽が発生（注：陰が発生するのではない）する様に、まずは套路の練習を十分に行う事によって推手の意味が発生するのであり、この練習の順序や頻度を間違えてはいけません。まさに套路と推手が揃って太極なのです。

*ちなみに太極拳(拳法)になるには更に器械(武器)と散手の練習が必要なのです。

- 医院の診療は、8月は休診です。
- 「歳寒松柏」も8月号は休刊です。
- ホールDOZの各レッスンは通常どおりです。

- 邦楽練習室R-1、R-2、
火曜日を除く毎日、邦楽・ギターなどの練習室に使えます。
一時間500円です。

- 自彊術「みどりの会」
毎週：水曜日の午前11時～12時半。
津田先生。一ヶ月：3000円。

- 三味線教室：お琴教室
三味線・・・松永鉄六・・・毎週水曜日
お琴・・・菊川 泉・・・毎週金曜日
初めての方も歓迎です。

- 寺子屋（漢方医学の古典を現代に読み解く講座）
毎月：第一火曜日：6時半。参加費無料、
7月2日：火曜日：6時半
8月は休講。9月は3日の火曜日です。

- 江口太極拳：下田ヨーガ：松本和ヨーガ：大野フラ、
などの日程は、ホールDOZにあります。

以上のクラス参加希望の方、ならびに、

ホールDOZ、一階の邦楽練習室：R-1、R-2、利用希望の方、

申し込みは、下記の専用メールで受け付けております。

yff00124@nifty.com (ワイ・エフ・エフ・ゼロ・ゼロ・イチ・ニイ・ヨン・
アットマーク・ニフティ・ドット・コム)